

稲作情報(号外:大雨後の対策)

発行日:令和7年8月21日
発行:仙北地域振興局農林部農業振興普及課

8月19日～20日にかけての大雨により被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。この度の大雨により、浸水・冠水が発生したほ場では農作物の生育に影響がでることが懸念されます。

身の安全確保を最優先にしながら、可能な限り農作物への被害を最小限にとどめるよう、適切な事後対策を行ってください。

1. 大雨に伴う管理対策(水稻)について

【事後対策】

- ・ ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を図ります。
- ・ 畦畔や用排水路等の点検・修繕を行い、生育状況に合わせた水管理に努めます。
- ・ 冠水した稲は、稲体の水分を失いやすいことから、ほ場を急激に乾かさないう水管理に努めます。
- ・ 倒伏した場合は、稲株を引き起こし、穂を地表面から離して束ねるなど、登熟の低下を防ぎます。
- ・ 穂発芽の発生により品質低下が懸念されるため、被害程度と籾の状況を確認しながら、適期収穫に努めます。また、穂発芽等の被害籾が発生した場合は、刈り分けを行い品質低下を防止します。
- ・ ほ場内への漂着物は、収穫時の事故につながるため、除去に努めます。

2. 今後の栽培管理について

(1) 登熟期間の水管理

最終落水の時期は概ね出穂30日後とします。早期に落水すると葉色の低下や枯れ上がり、根の機能減退により登熟が妨げられ収量、品質、食味が低下する場合がありますため注意が必要です。収穫作業に支障がない限り、早期落水は避けましょう。

(2) 適期刈り取りの徹底

本年は出穂期が早かったことに加え、出穂期以降に気温が平年より高く経過しており、今後も気温が高く経過する見込みであることから、出穂期翌日からの平均気温の積算による刈り取り適期はやや早まる予想です。

刈り遅れることで胴割れ米の発生が増加し、品質低下につながるため適期収穫を徹底しましょう。刈り取り適期は積算気温の他、積算日照時間や出穂後日数も判断の目安にしながら、最終的には各ほ場ごとに籾の黄化程度を確認して判断してください。

【収穫時期の判断目安】

- ①出穂後日数：早生種（あきたこまち・秋のきらめき）が45日前後、中晩生種（ゆめおぼこ、サキホコレ等）は50日前後が目安です。
- ②積算気温：早生種は950～1,050℃、中晩生種は1,050℃～1,150℃に到達する日を目安にします（表1参照）。また、積算気温が早生品種で1,100℃、中晩生種で1,200℃を超えると、立毛中でも胴割れ米が急増するので適期収穫に努めてください。特に本年のような高温年は胴割れ米が発生しやすい傾向にあるため、刈り遅れに注意してください。
- ③積算日照時間：あきたこまち（収量基準570kg/10a）の場合、出穂期翌日からの積算日照時間が200時間に到達した日を目安とします。
- ④籾・枝梗の黄化程度：（籾の熟色）葉や枝梗が緑色であっても**籾の黄化程度が90%の頃**（枝梗の黄化程度）主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃。

表1 アメダスデータにおける積算気温到達日予測

アメダス地点	積算気温	出穂期						(参考: 平年) 8月2日
		7月25日	7月28日	7月31日 (盛期)	8月3日	8月6日	8月9日	
大曲	950℃到達	9月1日	9月4日	9月8日	9月12日	9月16日	9月20日	9月12日
	1,050℃到達	9月5日	9月9日	9月13日	9月17日	9月22日	9月26日	9月17日
	1,150℃到達	9月10日	9月14日	9月18日	9月23日	9月27日	10月2日	9月22日

※8月21日まで本年値、それ以降は平年値で試算

3. 熱中症に注意しましょう

引き続き、気温が高い日が予想されますので、復旧作業時や農作業時の熱中症には十分注意しましょう。

- 農作業は日中の気温の高い時間帯を外して行うとともに休憩をこまめにとり、作業時間を短くするなどの工夫をしましょう。特に、気温が高くなりやすいハウス等の施設内での作業は注意しましょう。
- 喉の渇きを感じる前に水分・塩分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給しましょう。
- 農作業の際は単独作業は避けて、できるだけ複数名で作業を行いましょう。
- 時間を決めて連絡をとったり、休憩を取るなどしてお互いの体調を確認しましょう。
- 熱中症が疑われる場合は、速やかに作業を中断し、涼しい場所に避難するなどの応急処置をとってください。症状が改善しない場合は、医療機関を受診しましょう。